

eitoeiko より展覧会のお知らせです

APRDELESP

URBAN GAZE

3.30-4.15, 2024

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 [東京芸術文化創造発信助成]



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。eitoeiko では 3 月 30 日より 4 月 15 日まで、APRDELESP による個展「URBAN GAZE」を開催いたします。本展は公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 [東京芸術文化創造発信助成] 助成事業です。APRDELESP 建築事務所は 2012 年、メキシコシティで設立されました。ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展(2023)メキシコ館のほか、ロドス・ギャラリーの設計(2021)、マテリアル・アートフェアの会場設計(2016-21)など、多彩な活動を行い、社会通念と物理的条件の関係を調査し、空間の利用についての「研究としての実践」をつづけています。APRDELESP の名前の由来は、「空間を用いる」という言葉(apropiación del espacio)から来ています。本展では、2008 年にメキシコシティのグロリエタ・デ・ロス・インスルヘンテスで起きたエモ・キッズとパンクロッカーたちの闘争に、研究としての実践的アプローチを試みます。皆様のご高覧をお待ちしております。

2008 年 3 月 16 日、都市のサブカルチャーであるエモ(※ロックミュージックの形態の一種)ファンのグループが、メキシコシティ中心部の公園で、交通の要所であるグロリエタ・デ・ロス・インスルヘンテスに集まり、郊外で流行していたパンクスの暴力行為に抗議しました。この平和的なデモは、より多くの敵意をもたらし、逆にパンクスからの攻撃を受ける結果となりました。最終的に警察が介入しましたが、偶然通りかかったハレ・クリシュナ運動(※インド人宗教家による新興宗教)の信徒が両グループを引き離すのに一役



買い、この事件に不条理なレイヤーを加えています。自称パンクスの中には、エモ・キッズが自分たちのスタイルをコピーし、シーンを盗んだと非難する者もいましたが、憎悪の原因は主にホモフォビアとミソジニーから来るものでした。この対立は現在では「エモス対パンクス」と呼ばれ、インターネットが現在のようなユビキタスなコミュニケーション形態になり始めたばかりの頃に起きたため、人々は YouTube や SNS にビデオやコメントを投稿し、全国紙やテレビニュースなどの伝統的なメディアでレポーターがその画像やコメントを放送し、その記事が改めてオンラインで流行することになりました。本展は、エ

モス対パンクスの罵り合いの舞台となった都市空間を題材に、グロリエタ・デ・ロス・インスルヘンテスの物理的な模型と、リサーチによるアーカイブ素材(映画やテレビ放送の断片、発見された映像や写真)を使った映像で構成されます。

APRDELESP のリサーチ・プロジェクトは、さまざまなベクトルを持つ都市のサブカルチャーを通じて、都市を継続して眺めます。1960 年代のカウンターカルチャーから 1968 年の学生大虐殺を経て、1969 年に建設されたグロリエタ・デ・ロス・インスルヘンテス。ポール・バーホーベン監督の名作『トータル・リコール』のロケ地として登場する、ネオンサインが煌めく東京をモチーフにした近未来 SF 都市としてのグロリエタ・デ・インスルヘンテス。パンク、メタル、エモなどのサブカルチャーに特化した毎週開催の青空市場「ティアンギス・カルチュラル・デル・チョポ」とグロリエタ・デ・インスルヘンテスは近く、メトロバスで繋がっています。またインスルヘンテス駅のあるメキシコシティ地下鉄 1 号線は、1970~80 年代に活躍したパンク・ギャング、セックス・パンチトス・パンクのホームグラウンドを最西端のオプセルバトリオ駅として、1990 年代に活躍したパンク・バンド、ミエルダス・パンクのホームを最東端のパンティトラン駅として、2 つを結んでいます。

eitoeiko

東京都新宿区矢来町 32-2

03-6873-3830

www.eitoeiko.com | 開廊 12 時から 7 時 | 会期中無休